

1 平成 20 年発生災害について

(1) 平成 20 年発生災害の概要

平成 20 年発生災害に係る国土交通省所管公共土木施設の被害は、直轄で約 183 億円 (97 箇所)、補助で約 1,219 億円 (5,384 箇所)、合計約 1,401 億円 (5,481 箇所) が報告されている。

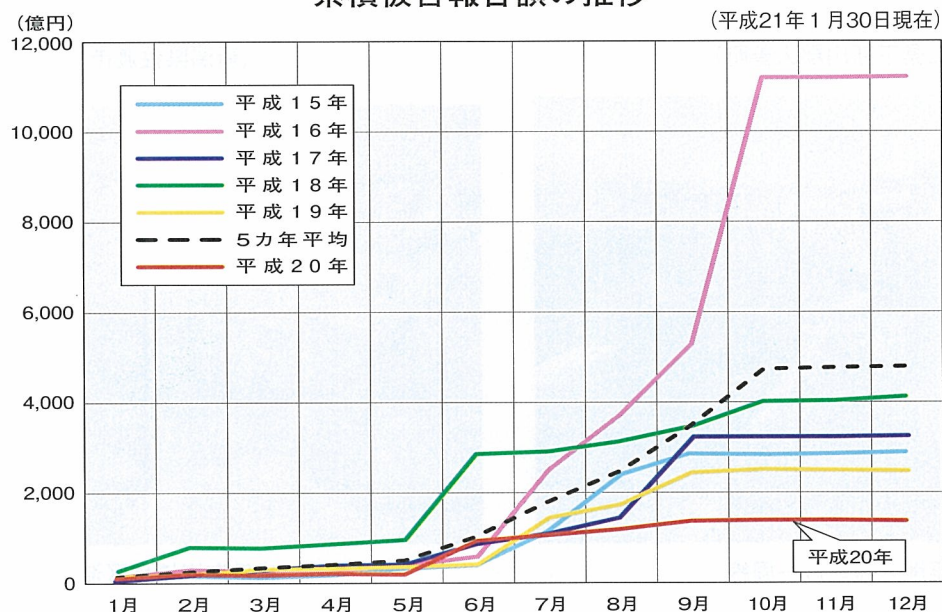
主な災害原因としては、2 月に発生し、主に新潟県、富山県に被害をもたらした「冬期風浪」や、6 月 14 日に発生し、主に岩手県、宮城県、秋田県に被害をもたらした「岩手・宮城内陸地震」、また、7 月末から 8 月末に発生し、主に富山県、石川県、京都府、福島県、岐阜県、愛知県に被害をもたらした「平成 20 年 8 月末豪雨に代表される集中豪雨」、9 月に発生した「台風 13 号、台風 15 号」などがある。

これらの被害により、全国各地で尊い人命と貴重な財産が失われるなど甚大な被害が発生している。



図 平成 20 年自然災害発生状況（平成 21 年 3 月 2 日現在）

累積被害報告額の推移



(2) 主な平成 20 年発生災害の概要

① 2 月 23 日から 24 日にかけての低気圧による被害状況等について

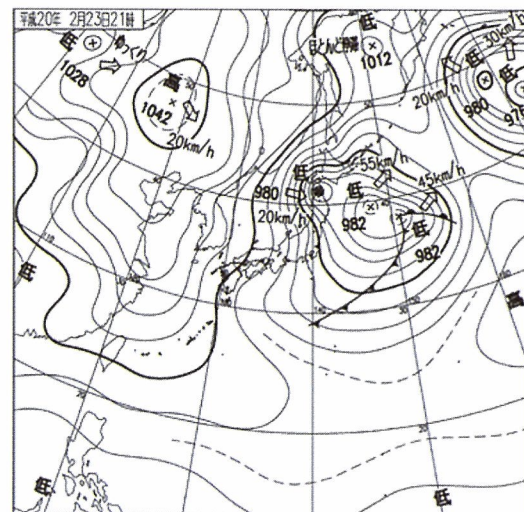
2 月 23 日朝、日本海にあった低気圧が発達しながら東進し、23 日夜には東北北部に達した。24 日は低気圧が三陸沖で発達して冬型の気圧配置が強まり、日本付近に強い寒気が流れ込んだ。

このため、2 月 23 日から 24 日かけて、北日本から西日本にかけての日本海側と太平洋側の山沿いの広い範囲で大雪となり、北日本や西日本にかけて陸上で 20 ～ 25 メートル、海上で 25 ～ 28 メートルの暴風や暴風雪となった。また、最大瞬間風速が 30 メートルを超えるところもあった。

この低気圧により、死者 4 名、負傷者 89 名、住家全壊 4 棟、半壊 16 棟などの大きな被害となった。

国土交通省所管の公共土木施設については、93 箇所、約 170 億円の被害が発生した（直轄・補助計）。

また、富山県・新潟県からの要請を受けて、田上総括災害査定官等が現地に派遣され、災害復旧調査を実施し、被災状況調査や早期本格復旧に向けた復旧方針等の技術的支援・助言を行った。（3月6日～7日）



地上天気図（平成 20 年 2 月 23 日 21 時）

〔出典：新潟地方気象台発表資料〕

○一般被害（消防庁調べ：平成 20 年 4 月 15 日 10：30 現在）

死者（人）	負傷者（人）	住家全壊（棟）	住家半壊（棟）	一部破損（棟）	床上浸水（棟）	床下浸水（棟）
4	89	4	16	452	14	124



浸水被害の状況
（富山県下新川郡入善町）



災害復旧調査の実施状況
（新潟県佐渡市）



主要地方道佐渡一周線
（新潟県佐渡市）



朝日海岸境地区海岸
（富山県朝日町）

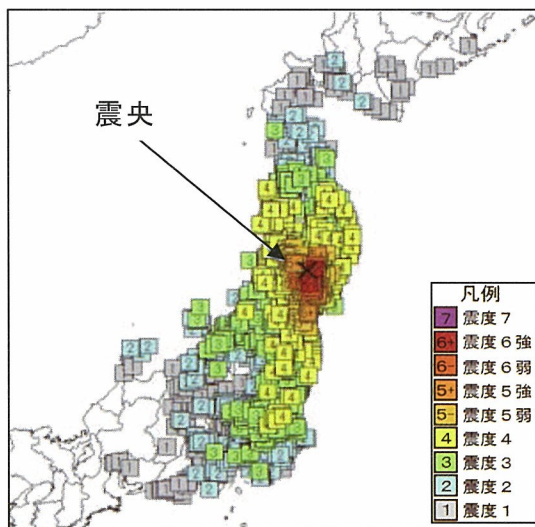
②平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震について

6 月 14 日 8 時 43 分頃、岩手県内陸南部を震源（深さ約 8 km）とするマグニチュード 7.2 の地震が発生し、岩手県の奥州市、宮城県の大崎市で震度 6 強を観測したほか、宮城県の各地をはじめ岩手県や秋田県の一部にかけて震度 5 強～6 弱を観測した。

この地震により、死者 13 名、行方不明者 10 名、負傷者 451 名の人的な被害を受けた。また、震源地に近い宮城県では多くの家屋（全壊 33 棟、半壊 138 棟）が損壊するなどの甚大な被害を受けた。また、国土交通省所管の公共土木施設については、734 箇所、約 598 億円の被害が発生した（直轄・補助計）。

また、岩手県、宮城県、秋田県からの要請を受け、田上総括災害査定官等が現地に派遣され、災害復旧調査を実施し、被災状況調査や早期本格復旧に向けた復旧方針等の技術的支援・助言を行った。（岩手県・宮城県 6 月 14～15 日、秋田県 6 月 16～17 日、岩手県 6 月 24～25 日、宮城県 6 月 26～27 日）

なお、平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震による被害は、平成 20 年 7 月 9 日付け政令をもって激甚災害（局激）として指定された。



震度分布図 (H20. 6. 14 8:43)
[出典：気象庁発表資料]

○一般被害（消防庁調べ：平成 20 年 11 月 17 日 13:00 現在）

死者・行方不明者 (人)	負傷者 (人)	住家全壊 (棟)	住家半壊 (棟)	一部破損 (棟)
23	451	33	138	2,181



市道荒砥沢線
(宮城県栗原市)



一般国道 342 号線 祭時大橋
(岩手県一関市)



一般国道 398 号線
(秋田県湯沢市)



主要地方道築館栗駒公園線
(宮城県栗原市)

③大気の状態不安定による大雨と突風（7月27日～29日）

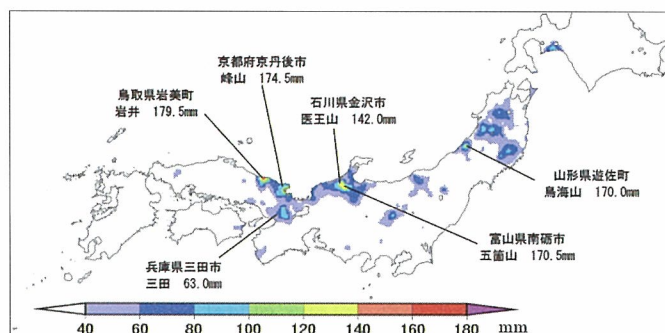
7月27日から29日にかけて、日本付近は、上空に寒気が入り、下層には暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、27日から29日にかけて、富山県南砺市五箇山では170.5ミリの雨を、京都府京丹後市の峰山では174.5ミリの雨を観測した。

この大雨により、各地で浸水被害や土砂災害が発生した。28日には兵庫県神戸市の都賀川で急速な増水により5名が死亡した。

また、石川県金沢市内を流れる浅野川等では、溢水・氾濫が生じ、石川県内で、床上浸水507棟、床下浸水1,486棟の住家が浸水するなどの被害が発生した。

また、石川県、富山県からの要請を受け、大谷総括災害査定官等が現地に派遣され、災害復旧調査を実施し、被災状況調査や早期本格復旧に向けた復旧方針等の技術的支援・助言を行った。（石川県8月5日、富山県8月7日）

この大雨を含め平成20年7月26日から7月30日までの豪雨に係る国土交通省所管の公共土木施設については、552箇所、約108億円の被害となった（直轄・補助計）。

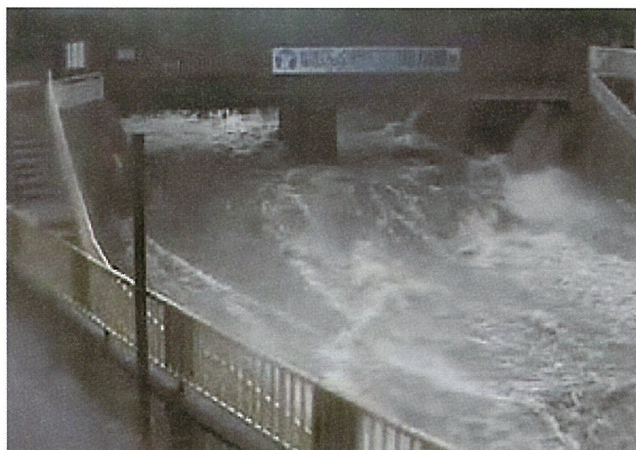


期間降雨量分布図（7月27日～29日）

[出典：気象庁発表資料]

○一般被害（消防庁調べ：平成20年9月9日 18:00 現在）

死者（人）	負傷者（人）	住家全壊（棟）	住家半壊（棟）	一部破損（棟）	床上浸水（棟）	床下浸水（棟）
6	13	6	16	61	536	2,464



都賀川の出水状況
（兵庫県神戸市）



浅野川の氾濫による浸水状況
（石川県金沢市）



一級河川山田川
（富山県南砺市是安地先）



主要地方道金沢湯涌福光線
（石川県金沢市板ヶ谷町地先）

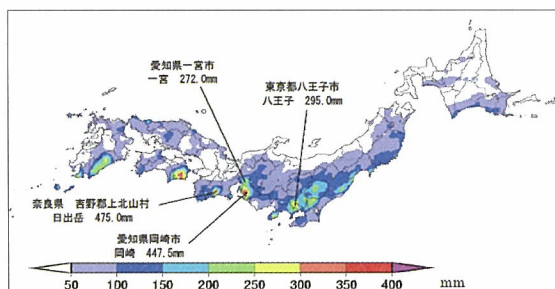
④平成 20 年 8 月末豪雨による被害

8 月 26 日に低気圧が東シナ海を東に進み九州南部に接近した。これに伴い、27 日にかけて西日本の太平洋側を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込み大雨となった。また、この低気圧が日本の南海上に進んだ 8 月 28 日から 31 日にかけては、本州付近に停滞した前線に向かって南から非常に湿った空気の流れ込みが強まり、大気の状態が不安定となって、東海、関東、中国および東北地方などで記録的な大雨となった。

愛知県岡崎市岡崎では 29 日の 1 時間雨量が観測史上 1 位を更新する 146.5 ミリに達するなど、1 時間雨量の記録を更新した地点が全国で 20 箇所を超え、各地で局地的な短時間の非常に激しい雨が降った。この大雨により、愛知県岡崎市では 29 日に住家の浸水により死者 2 名となり、各地で浸水害、土砂災害や落雷による停電等が発生、また、鉄道など交通機関にも大きな影響が出た。特に、住家の浸水は、愛知県で名古屋市や岡崎市を中心に 4,200 棟を大幅に超え、関東地方では千葉県や埼玉県を中心に 4,300 棟に達するなど、中国、東海、関東、東北地方などで被害が発生した。

また、愛知県からの要請を受け、大谷総括災害査定官等が現地に派遣され、災害復旧調査を実施し、被災状況調査及び早期本格復旧や今後の改修に向けた復旧方針等の技術的支援・助言を行った。（愛知県県 9 月 5 日）

この大雨を含め平成 20 年 8 月 26 日から 8 月 31 日までの豪雨に係る国土交通省所管の公共土木施設については、464 箇所、約 73 億円の被害となった（直轄・補助計）。



期間降水量分布図（8 月 26 日～ 31 日）
[出典：気象庁発表資料]

○一般被害（消防庁調べ：平成 20 年 9 月 10 日 21:15 現在）

死者（人）	負傷者（人）	住家全壊（棟）	住家半壊（棟）	一部破損（棟）	床上浸水（棟）	床下浸水（棟）
3	3	5	1	18	1,678	8,071

※愛知県名古屋市の住家被害（半壊 1 世帯、一部破損 1 世帯、床上浸水 1,149 世帯、床下浸水 8,060 世帯）上記表では未計上。



一級河川広田川
（愛知県額田郡幸田町大字菱池地先）



市道菰川竜泉寺川堤 2 号線
三河橋（愛知県岡崎市菰川新町地内）



梅谷川
（岐阜県不破郡垂井町梅谷地先）



一級河川伊賀川
（愛知県岡崎市城北町地先・元能見町地先）